

令和5年度 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業

滋賀県における
コロナ特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究
コロナ禍での暮らしに関するアンケート調査 報告書

令和6年5月

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

はじめに

滋賀の縁創造実践センター・滋賀県社会福祉協議会は、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる人間的共感にねざした共生社会の実現のため「ひたすらなるつながり」の理念のもと、不断の地域福祉実践に取り組むことを法人の経営理念としています。

2020年2月より、新型コロナウイルス感染症が世界で蔓延し、社会情勢が大きく変容したことによって、生活困窮に陥った方、困りごと・生きづらさを抱えている方の、更なる社会的孤立の問題が顕在化しました。

コロナ禍で経済的に困窮した人を対象として全国一斉に実施された「緊急小口資金等生活福祉資金特例貸付」(「コロナ特例貸付」)は、本県でも約2万世帯が利用され、貸付総額は約241億円でした。コロナ特例貸付は令和4年9月に受付を終了し、令和5年1月からは、返済がはじまりましたが、依然として、生活状況が困難な方、生活再建への継続的な支援を必要としておられる世帯が存在しています。生活福祉資金は、「相談支援付貸付事業」であることから、本会では当初より市町社会福祉協議会と連携し、経済的な支援だけではなく、世帯が抱えている困りごとに寄り添い支援を行っているところです。

このコロナ特例貸付が貸付利用者世帯の生活をどのように支えたのか、また生活状況は改善したのか、世帯が抱える困りごとの解決につながっていったのか、などの効果検証は、全国的にも重要なテーマであると考えます。

そこで、本会では、本貸付制度の意義と課題を確認するとともに、生活福祉資金貸付事業とフォローアップ支援への取組みを検討するための資料を得ることを目的として、今回の調査を実施しました。この調査研究は、追跡調査によるフォローアップ支援の効果検証等、3か年計画で進めています。今回の調査とともに、各都道府県における様々な取り組みのエッセンスを交換、共有し、生活困窮者支援の充実を図っていく所存です。

最後になりましたが、この調査に対して助言からデータ分析まで幅広く関わってくださった日本福祉大学健康社会研究センターの斉藤雅茂教授、渡邊良太研究員の御尽力に対して御礼申し上げます。そして何より、この調査はアンケートにご回答いただきました世帯の皆様の御協力により成り立ったものであり、皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年5月

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

目 次

I	調査研究事業の目的と概要	…3
	1. 事業の趣旨	
	2. 事業の内容	
	3. 実施体制	
II	コロナ特例貸付利用者への コロナ禍での暮らしに関するアンケート調査	…4
	1. 調査概要	…4
	2. 調査結果の概要	…9
	3. 調査結果	…12
	4. 調査票	…39

I 調査研究事業の目的と概要

1. 事業の趣旨

滋賀県では、約2万世帯が「生活福祉資金緊急小口資金等特例貸付(以下「特例貸付」)」を利用し、貸付総額は241億を超えた。生活福祉資金は相談支援付貸付であることから、本県では滋賀県社協と市町社協が連携し、特例貸付利用者のフォローアップ支援に取り組んでいる。

特例貸付の返済が令和5年1月から始まったが、その時点では、全利用世帯(約2万世帯)のうち、約3割が免除、約3割が返済中、そして約3割は連絡がとれずに状況不明となっていた。また、返済猶予の申請書類からは、失業後、再就職ができない人、就労先の業績悪化により収入が低迷している人、自身や家族の傷病などによりやコロナ禍以前から生活困窮が続いていると思われる人など、生活に困難を抱える人が依然として多いことがうかがえる。

今回の研究事業は、利用者調査及び追跡調査を実施することにより、特例貸付はどのような生活上の課題に対応できたのか、利用者は現在どのような生活をされているのか等について明らかにするとともに、生活福祉資金貸付制度のあり方、さらには生活困窮者支援の効果を高める支援方策等を検討する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 事業の内容

令和5年度～令和7年度にて、以下の内容を予定。

初年度である令和7年度については、【(1)特例貸付に関する量的調査】として、「コロナ特例貸付利用者へのコロナ禍でのくらしに関するアンケート調査」を実施した。

(1)特例貸付に関する量的調査

- ・利用者を対象とした調査
- ・既存資料に基づく分析

(2)フォローアップ支援の効果に関する質的調査

(3)研究成果の発信

- ・(1)(2)の結果を踏まえて、生活困窮者支援に関わる機関、関係者に対し、研究から見出した方策等を発信
- ・課題解決に向けた行政への施策提案

3. 実施体制

- ・滋賀県社会福祉協議会役職員にてプロジェクトチームを編成し、企画及び調査にかかる業務を進める。
- ・調査の企画、実施にあたっては日本福祉大学健康社会研究センターに分析協力、助言を委託した。

Ⅱ 特例貸付利用者世帯へのコロナ禍での暮らしに関するアンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

コロナ特例貸付はどのような生活上の課題に対応できたのか、また利用者は現在どのような生活をされているのか等、本貸付利用者の生活実態を把握することによって、制度の意義と課題を確認するとともに、生活福祉資金貸付事業とフォローアップ支援への取り組み方を検討するための資料を得ることを目的として、今回の調査を実施した。

(2) 調査の枠組み

- 調査対象 滋賀県の生活福祉資金・特例貸付総合支援資金(初回)を利用した借受人

10,227 名

※緊急小口資金のみ利用した借受人は除外。

住民票が県外に異動している、居住地不明、死亡、債務整理等の借受人は除外。

<調査対象者数・抽出率>

		(母集団) 総合支援資金 初回件数	調査対象数 (県外等除外適用済 を除く)	抽出率	ひとり親世帯 オーバーサンプル	送付数
1	大津市	4,030	1,430	2/5 抽出	137	1,567
2	彦根市	1,307	693	3/5 抽出	39	732
3	長浜市	2,410	1,073	1/2 抽出	60	1,133
4	近江八幡市	1,412	705	3/5 抽出	34	739
5	草津市	1,526	779	3/5 抽出	38	817
6	守山市	603	552	全 数	0	552
7	栗東市	761	532	4/5 抽出	7	539
8	甲賀市	1,069	631	7/10 抽出	6	637
9	野洲市	507	445	全 数	0	445
10	湖南市	1,481	772	3/5 抽出	36	808
11	高島市	291	261	全 数	0	261
12	東近江市	2,120	878	1/2 抽出	66	944
13	米原市	255	224	全 数	0	224
14	日野町	279	234	全 数	0	234
15	竜王町	65	55	全 数	0	55
16	愛荘町	370	331	全 数	0	331
17	豊郷町	123	117	全 数	0	117
18	甲良町	40	38	全 数	0	38
19	多賀町	57	54	全 数	0	54
		18,706	9,804		423	10,227

・市町村ごとの回答数を確保するために、各市町村で指定の抽出率に基づいて、系統抽出法にて対象者を抽出

(県外等除外適用済を除く)

・ひとり親世帯の回答数を確保するため、一部市町村でオーバーサンプリングを実施

- 調査時期 2023 年 10 月 20 日～11 月 30 日

最終回収日) 2023 年 11 月 20 日(Web)／2023 年 11 月 30 日(郵送)

- 調査方法 自記式調査

郵送法と Web 調査法(Google Form)の併用

Web 調査票は多言語(日本語・英語・ポルトガル語・ベトナム語・スペイン語)に対応

- 回収数 3,384 件(うち、質問紙回答=2,003 件、Web 回答=1,381 件)

回収率 33.09%(3,384 / 10,227 件)

- 有効回収数:3,299 件(うち、質問紙回答=1,992 件、Web 回答=1,307 件)

有効回収率:32.26%(3,299 / 10,227 件)

無効票 合計 85 件

①存在しない ID ケース(Web 調査のみ) ---> 5件(うち1件は重複回答)

②重複回答ケース ---> 81 件

※質問紙調査と Web 調査の双方に回答しているケース、Web 調査に複数回回答しているケースあり。→ 4回回答: 4件 / 3回回答: 4件 / 2回回答: 61 件

<重複ケースの取り扱い>

①無回答(欠損)数が少ない回答分を採用する。

②(無回答数が同数の場合)質問紙調査への回答分を採用する。

③(無回答数が同数かつ質問紙調査への回答がない場合)回答日が古い方を採用する。

回答方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 質問紙回答	1992	60.4	60.4	60.4
	1 Web (日本語)	895	27.1	27.1	87.5
	2 Web (英語)	58	1.8	1.8	89.3
	3 Web (ポルトガル語)	227	6.9	6.9	96.2
	4 Web (ベトナム語)	79	2.4	2.4	98.5
	5 Web (スペイン語)	48	1.5	1.5	100.0
	合計	3299	100.0	100.0	

- 集計方法① 無回答・欠損の取り扱いについて

本分析では、無回答・欠損について、代入処理(Multiple Imputation など)は行わず、集計から除外している(分母に含めていない)。このため、集計ごとに回答者の総数が異なる。

- 集計方法② 重みづけ(Weight)について

①ひとり親世帯の回答数を確保するために一部市町村でオーバーサンプリングを実施していること、②市町村ごとの回答数を確保するために市町村ごとに抽出率が異なることを考慮して、名簿上の構成割合に近似するように3種類の重みづけ(Weight)をかける。

Weight 1: オーバーサンプリングをした「ひとり親世帯」分を考慮したもの。各自治体のひとり親世帯について、Weight 1 の値を重みづけする。

【自治体別の集計時に使用する】

Weight 2: 自治体ごとの対象者抽出率の相違(抽出率の低い・高い地域の偏り)を考慮したもの。各自治体の回答者について、Weight 2 の値を重みづけする。

【ひとり親世帯／その他世帯の比較時に使用する】

Weight 3: 上記の2つを考慮したもの。各自治体のひとり親世帯以外・ひとり親世帯のそれぞれについて、Weight 3 の値を重みづけする。

【対象地域全体の集計時に使用する】 ※本分析では原則これを使用する

<母集団数と回答集団数、Weight 値>

		母集団		最終送付数					有効回収数				重みづけ (Weight) 係数			
				合計	無作為抽出分			ひとり親 OS分	総数	%	うち、ひとり親数		Weight 1	Weight 2	Weight 3	
		全体	うち、ひとり親世帯		ひとり親世帯	地域抽出率	ひとり親世帯 以外						ひとり親世帯			
			n		n	n	%	n			n	%	OS分			
		1	大津市	4030	21.54%	1,567	1430	93	6.50%	137	569	17.11%	83	14.59%	0.404	1.259
2	彦根市	1307	7.0%	732	693	64	9.24%	39	253	7.6%	38	15.02%	0.621	0.919	0.981	0.565
3	長浜市	2410	12.9%	1,133	1073	72	6.71%	60	341	10.3%	45	13.20%	0.545	1.257	1.351	0.639
4	近江八幡市	1412	7.5%	739	705	50	7.09%	34	244	7.3%	33	13.52%	0.595	1.029	1.105	0.540
5	草津市	1526	8.2%	817	779	52	6.68%	38	273	8.2%	39	14.29%	0.578	0.994	1.082	0.464
6	守山市	603	3.2%	552	552	41	7.43%	0	184	5.5%	12	6.52%	1.000	0.583	0.577	0.664
7	栗東市	761	4.1%	539	532	45	8.46%	7	175	5.3%	22	12.57%	0.865	0.773	0.810	0.520
8	甲賀市	1069	5.7%	637	631	48	7.61%	6	157	4.7%	12	7.64%	0.889	1.211	1.211	1.205
9	野洲市	507	2.7%	445	445	47	10.56%	0	178	5.4%	22	12.36%	1.000	0.506	0.517	0.433
10	湖南市	1481	7.9%	808	772	62	8.03%	36	222	6.7%	40	18.02%	0.633	1.186	1.331	0.529
11	高島市	291	1.6%	261	261	17	6.51%	0	102	3.1%	8	7.84%	1.000	0.507	0.515	0.421
12	東近江市	2120	11.3%	944	878	51	5.81%	66	278	8.4%	37	13.31%	0.436	1.356	1.473	0.592
13	米原市	255	1.4%	224	224	19	8.48%	0	73	2.2%	6	8.22%	1.000	0.621	0.619	0.641
14	日野町	279	1.5%	234	234	21	8.97%	0	67	2.0%	5	7.46%	1.000	0.740	0.728	0.890
15	竜王町	65	0.3%	55	55	1	1.82%	0	17	0.5%	1	5.88%	1.000	0.680	0.709	0.210
16	愛荘町	370	2.0%	331	331	22	6.65%	0	94	2.8%	6	6.38%	1.000	0.700	0.698	0.729
17	豊郷町	123	0.7%	117	117	14	11.97%	0	42	1.3%	6	14.29%	1.000	0.521	0.535	0.436
18	甲良町	40	0.2%	38	38	7	18.42%	0	11	0.3%	2	18.18%	1.000	0.647	0.645	0.655
19	多賀町	57	0.3%	54	54	4	7.41%	0	19	0.6%	2	10.53%	1.000	0.533	0.552	0.375
		18706	100.0%	10,227	9804	730	7.45%	423	3299	100.0%	419	12.70%				

OS 分＝オーバーサンプリング分

※大津市は本来全体の 21.5%を占めるはずだが、本データは抽出率の相違から 17.1%しか存在しない。なので、大津市の回答データに 1.259(=21.54/17.11)倍し、母集団の構成比に近似させるという考え方。

補足：調査対象集団（18,706名）における借受人の属性（台帳情報より）

男 性：12,813名(68.5%)

女 性： 5,893名(31.5%)

平均年齢：47.2歳(標準偏差=14.0)

世帯人員： 1人 8,220名(43.9%)
 2人 3,880名(20.7%)
 3人 3,055名(16.3%)
 4人 2,181名(11.7%)
 5人 959名(5.1%)
 6人 280名(1.5%)
 7人 89名(0.5%)
 8人以上 42名(0.2%)

(ローデータ)

shicyoson 市町村コード

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 大津市	569	17.2	17.2	17.2
	2 彦根市	253	7.7	7.7	24.9
	3 長浜市	341	10.3	10.3	35.3
	4 近江八幡市	244	7.4	7.4	42.6
	5 草津市	273	8.3	8.3	50.9
	6 守山市	184	5.6	5.6	56.5
	7 栗東市	175	5.3	5.3	61.8
	8 甲賀市	157	4.8	4.8	66.6
	9 野洲市	178	5.4	5.4	72.0
	10 湖南市	222	6.7	6.7	78.7
	11 高島市	102	3.1	3.1	81.8
	12 東近江市	278	8.4	8.4	90.2
	13 米原市	73	2.2	2.2	92.4
	14 日野町	67	2.0	2.0	94.5
	15 竜王町	17	.5	.5	95.0
	16 愛荘町	94	2.8	2.8	97.8
	17 豊郷町	42	1.3	1.3	99.1
	18 甲良町	11	.3	.3	99.4
	19 多賀町	19	.6	.6	100.0
	合計	3299	100.0	100.0	

(Weight 1 による重みづけ後)

ひとり親世帯のオーバーサンプリング分を調整した値

shicyoson 市町村コード

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 大津市	520	16.5	16.5	16.5
	2 彦根市	239	7.6	7.6	24.1
	3 長浜市	321	10.2	10.2	34.3
	4 近江八幡市	231	7.3	7.3	41.6
	5 草津市	257	8.2	8.2	49.8
	6 守山市	184	5.9	5.9	55.6
	7 栗東市	172	5.5	5.5	61.1
	8 甲賀市	156	4.9	4.9	66.1
	9 野洲市	178	5.7	5.7	71.7
	10 湖南市	207	6.6	6.6	78.3
	11 高島市	102	3.2	3.2	81.6
	12 東近江市	257	8.2	8.2	89.7
	13 米原市	73	2.3	2.3	92.1
	14 日野町	67	2.1	2.1	94.2
	15 竜王町	17	.5	.5	94.7
	16 愛荘町	94	3.0	3.0	97.7
	17 豊郷町	42	1.3	1.3	99.0
	18 甲良町	11	.3	.3	99.4
	19 多賀町	19	.6	.6	100.0
	合計	3145	100.0	100.0	

ひとり親世帯をオーバーサンプリングした市町村の回答数(度数)の重みが軽くなっている。

(Weight 2 / Weight 3 による重みづけ後)

市町村ごとの抽出率の相違を調整した値

shicyoson 市町村コード

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 大津市	717	21.5	21.5	21.5
	2 彦根市	232	7.0	7.0	28.5
	3 長浜市	429	12.9	12.9	41.4
	4 近江八幡市	251	7.5	7.5	49.0
	5 草津市	271	8.2	8.2	57.1
	6 守山市	107	3.2	3.2	60.3
	7 栗東市	135	4.1	4.1	64.4
	8 甲賀市	190	5.7	5.7	70.1
	9 野洲市	90	2.7	2.7	72.8
	10 湖南市	263	7.9	7.9	80.8
	11 高島市	52	1.6	1.6	82.3
	12 東近江市	377	11.3	11.3	93.6
	13 米原市	45	1.4	1.4	95.0
	14 日野町	50	1.5	1.5	96.5
	15 竜王町	12	.3	.3	96.8
	16 愛荘町	66	2.0	2.0	98.8
	17 豊郷町	22	.7	.7	99.5
	18 甲良町	7	.2	.2	99.7
	19 多賀町	10	.3	.3	100.0
	合計	3326	100.0	100.0	

市町村ごとの構成割合が変わり、母集団での構成割合に近似している。

(Weight 2 による重みづけ後)

市町村ごとの抽出率のみを調整した値
(ひとり親世帯をオーバーサンプリングしたまま)

shicyoson 市町村コードとひとり大人判定【対象者名簿上】のクロス表

			ひとり大人判定【対象者名簿上】		合計
			0 ひとり親以外	1 ひとり親	
shicyoson 市町村コード	1 大津市	度数	612	105	717
		shicyoson 市町村コードの%	85.4%	14.6%	100.0%
	2 彦根市	度数	197	35	232
		shicyoson 市町村コードの%	84.9%	15.1%	100.0%
	3 長浜市	度数	372	57	429
		shicyoson 市町村コードの%	86.7%	13.3%	100.0%
	4 近江八幡市	度数	217	34	251
		shicyoson 市町村コードの%	86.5%	13.5%	100.0%
	5 草津市	度数	233	39	272
		shicyoson 市町村コードの%	85.7%	14.3%	100.0%
	6 守山市	度数	100	7	107
		shicyoson 市町村コードの%	93.5%	6.5%	100.0%
	7 栗東市	度数	118	17	135
		shicyoson 市町村コードの%	87.4%	12.6%	100.0%
	8 甲賀市	度数	176	15	191
		shicyoson 市町村コードの%	92.1%	7.9%	100.0%
	9 野洲市	度数	79	11	90
		shicyoson 市町村コードの%	87.8%	12.2%	100.0%
	10 湖南市	度数	216	47	263
		shicyoson 市町村コードの%	82.1%	17.9%	100.0%
	11 高島市	度数	48	4	52
		shicyoson 市町村コードの%	92.3%	7.7%	100.0%
	12 東近江市	度数	327	50	377
		shicyoson 市町村コードの%	86.7%	13.3%	100.0%
	13 米原市	度数	42	4	46
		shicyoson 市町村コードの%	91.3%	8.7%	100.0%
	14 日野町	度数	46	4	50
		shicyoson 市町村コードの%	92.0%	8.0%	100.0%
	15 竜王町	度数	11	1	12
		shicyoson 市町村コードの%	91.7%	8.3%	100.0%
	16 愛荘町	度数	62	4	66
		shicyoson 市町村コードの%	93.9%	6.1%	100.0%
	17 豊郷町	度数	19	3	22
		shicyoson 市町村コードの%	86.4%	13.6%	100.0%
	18 甲良町	度数	6	1	7
		shicyoson 市町村コードの%	85.7%	14.3%	100.0%
	19 多賀町	度数	9	1	10
		shicyoson 市町村コードの%	90.0%	10.0%	100.0%
合計		度数	2890	439	3329
		shicyoson 市町村コードの%	86.8%	13.2%	100.0%

市町村ごとの構成割合は調整しているが、ひとり親世帯はオーバーサンプリングした部分がそのまま残っている(実際の集団よりもひとり親世帯の割合が高くなっている)。

(Weight 3 による重みづけ後)

市町村ごとの抽出率とひとり親世帯をオーバーサンプリングを調整した値

shicyoson 市町村コードとひとり大人判定【対象者名簿上】のクロス表

			ひとり大人判定【対象者名簿上】		合計
			0 ひとり親以外	1 ひとり親	
shicyoson 市町村コード	1 大津市	度数	670	47	717
		shicyoson 市町村コードの%	93.4%	6.6%	100.0%
	2 彦根市	度数	211	21	232
		shicyoson 市町村コードの%	90.9%	9.1%	100.0%
	3 長浜市	度数	400	29	429
		shicyoson 市町村コードの%	93.2%	6.8%	100.0%
	4 近江八幡市	度数	233	18	251
		shicyoson 市町村コードの%	92.8%	7.2%	100.0%
	5 草津市	度数	253	18	271
		shicyoson 市町村コードの%	93.4%	6.6%	100.0%
	6 守山市	度数	99	8	107
		shicyoson 市町村コードの%	92.5%	7.5%	100.0%
	7 栗東市	度数	124	11	135
		shicyoson 市町村コードの%	91.9%	8.1%	100.0%
	8 甲賀市	度数	176	14	190
		shicyoson 市町村コードの%	92.6%	7.4%	100.0%
	9 野洲市	度数	81	10	91
		shicyoson 市町村コードの%	89.0%	11.0%	100.0%
	10 湖南市	度数	242	21	263
		shicyoson 市町村コードの%	92.0%	8.0%	100.0%
	11 高島市	度数	48	3	51
		shicyoson 市町村コードの%	94.1%	5.9%	100.0%
	12 東近江市	度数	355	22	377
		shicyoson 市町村コードの%	94.2%	5.8%	100.0%
	13 米原市	度数	41	4	45
		shicyoson 市町村コードの%	91.1%	8.9%	100.0%
	14 日野町	度数	45	4	49
		shicyoson 市町村コードの%	91.8%	8.2%	100.0%
	15 竜王町	度数	11	0	11
		shicyoson 市町村コードの%	100.0%	0.0%	100.0%
	16 愛荘町	度数	61	4	65
		shicyoson 市町村コードの%	93.8%	6.2%	100.0%
	17 豊郷町	度数	19	3	22
		shicyoson 市町村コードの%	86.4%	13.6%	100.0%
	18 甲良町	度数	6	1	7
		shicyoson 市町村コードの%	85.7%	14.3%	100.0%
	19 多賀町	度数	9	1	10
		shicyoson 市町村コードの%	90.0%	10.0%	100.0%
合計		度数	3084	239	3323
		shicyoson 市町村コードの%	92.8%	7.2%	100.0%

市町村ごとの構成割合に加えて、ひとり親世帯のオーバーサンプリング分も調整しているため、ひとり親世帯の該当割合も母集団での割合に近似している。

2. 調査結果の概要

(1) 総括

2023年10～11月にかけて、滋賀県の生活福祉資金・特例貸付支援の借受人 10,227 名(ひとり親世帯を一部オーバーサンプリング)を対象にした質問紙調査(郵送法と Web 調査法の併用)を実施した。有効回収数は 3,299 名(有効回収率:32.26%)であった。回答者の性別は男性が6割、女性が4割、平均年齢は 52.2 (標準偏差=14.1)歳であった。

1) 特例貸付に対する満足度とコロナ前の社協の認知度等

コロナ特例貸付に対する満足度は 91.3%と高い。コロナ前の社協に認知度は 41.7%だが、現在は、89.0%が頼れるところになると思うと回答している。

クロス分析から、「困りごとを相談できる人がいない」「友人、知人と会う頻度が少ない」「健康度が良好でない」という人は、そうでない人と比べて、特例貸付の満足度について「とても満足」している人が少ない。

2) 特例貸付利用者の今後の返済への不安

満足度の高さの一方で、84.9%が今後の返済に不安(とても不安、少し不安)を抱えている。とりわけ償還猶予中の人の 74.4%が「とても不安」と回答している。クロス分析から、「50歳以上」「低所得(等価所得10万円未満/月)」「仕事をしていない」「内職・自営業」「転職回数が多い」「困りごとを相談できる人がいない」「友人知人と会う頻度が少ない」「健康度が良好でない」という人は、そうでない人と比べて、「とても不安がある」「不安がある」人が多い。

3) 特例貸付前から現在までの等価世帯月収の分布

等価世帯月収※10万円未満の人が、コロナ前では 27.5%、コロナ禍では 65.3%、現在では 42.9%と収入は回復しつつあるが、コロナ前ほどの収入には戻っていない。つまり生活の立て直しまでは至っていないと推察される。

※ 等価所得とは、当該世帯の「生活水準」を表すように調整した所得を指す。同じ世帯所得であっても、世帯人員によって生活水準は大きく異なる。他方で、一人当たり所得という指標では生活水準を反映しにくいことが知られている(世帯人員が2倍になっても支出は2倍にはならないため)。ここでは、調査票で把握された月収について、世帯構成員の人数の「平方根」で除した値を用いている。たとえば、1人世帯で月収 30万円、2人世帯で月収30 万円、4人世帯で月収 30万円の場合、等価所得で表すと、それぞれ月収30 万円、21万円、15万円となる。

4) 特例貸付当時および現在の困窮度と家計状況

回答者の 75.3%が特例貸付申込時は「とても厳しい」家計状況であった。現在は大幅に改善しているものの、依然として 40.5%が「とても厳しい」と回答している。食料・日用品・家賃にかかる出費、ローンや借金の返済、税金・公共料金の支払いでとても困っていた。家計状況の厳しさは、ひとり親世帯において顕著であり(「とても厳しい」82.8%)、教育・子育てにかかる出費については、現在も50%を超える人がとても困っていることがわかる。

5) 特例貸付当時および現在の困りごと

特例貸付申込時の困りごとは、「仕事に関すること」(74.6%)、「住まいに関すること」(43.9%)、「病気や障害、介護に関すること」(43.8%)が多かった。現在は、仕事に関する困りごとは減少しているが、病気や障害、介護に関することはやや増加している。

6) 特例貸付利用者の幸福度

内閣府等の全国調査との比較から、特例貸付利用者には幸福度が低く、孤立しがちな人が多かった。

幸福度: 今回の平均 4.79 < 全国の平均 5.79 ※1

一人で食事をする人が多い: 今回の割合 42.7% > 全国調査の割合 15.3% ※2

※1. 内閣府(2023) 満足度・生活の質に関する調査報告書 2023; 我が国の Well-being の動向

※2. 農林水産省(2017) 食育に関する意識調査

7) 特例貸付利用者の就労状況・転職回数

特例貸付利用者のうち、常勤・正規職員として就労している人は 28.7%。また転職回数が4回以上の人 が 61.7%であった。滋賀県全体の調査との比較から、特例貸付利用者は、常勤・正規職員として就労している人が少なかった。

・有業者に占める常勤・正規職員の割合…県全体 52.1% > 今回34.3%

・有業者に占める非正規職員等の割合 …県全体 35.0% < 今回40.2%

※R4 年度 就業構造基本調査(滋賀県)

8) 特例貸付利用者におけるひとり親世帯の困りごと

ひとり親世帯では、貸付申込時および現在ともに「食料・日用品・家賃にかかる出費」と「教育・子育てにかかる出費」で困っている人が顕著に多い。現在でも、ひとり親世帯の5割が「教育・子育てにかかる出費」で、4割が「食料・日用品・家賃にかかる出費」で、とても困っていると回答している。

(2)考察

1)コロナ特例貸付利用者の大半は、平時は生活福祉資金の対象とならない層である。しかし、新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックが起こった場合に、1か月無収入に陥ったり、シフト変更や時間外勤務の縮小により収入が減少すると、一瞬にして生活が困窮するというギリギリの生活状況にある人、いわゆる“溜め”がない人たちであるといえる。また、令和4年度就業構造基本調査における本件の状況と比較すると、特例貸付利用者の利用者層は、有業者における非正規雇用の割合が大きく、このことが“溜め”を作ることを難しくしている背景の一つであると捉えている。

2)健康に関する設問、友人や知人と会う頻度に関する設問を見ると、とりわけ、健康不良の人、人とのつきあいがほとんどないという人は、そうでない人と比較してコロナ特例貸付への満足度が低く、社協への信頼度についても、「社協が頼りになると思う」という回答が少ないという結果になっている。さらに、今後の返済について不安を抱えている人が顕著に多いという結果が明らかになった。単に、経済面での支援を行ったとしても、利用者の生活における健康不安や孤立の要因となっている問題が解消しなければ、生きづらさの軽減にはつながっていかないといえるのではないだろうか。

3)現在、滋賀県社協が市町社協とともに取組んでいるフォローアップ支援では、戸別訪問をしている調査員や相談員が、「その背景に何かあるのではないか」と感じ、市町社協や市役所とキャッチボールしながら支援をつないでいる事例が少なくない。世帯が抱えている生きづらさの課題に向き合い、生活を再建していくことを目指して、支援者もつながり、面での支援を続けていくことが求められている。

本会は、この調査結果を踏まえ、“待ち”ではなく“プッシュ型・アウトリーチ型”の相談支援活動を着実に実施し、市町社協や福祉事務所、地域包括支援センター等との連携により、一人ひとりの生活困難の背景にある課題に丁寧に対応するという方向性を明確にもって、今後も取組んでいくこととしたい。

3. 調査結果

(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は男性が6割、女性が4割とやや男性が多い。
- 回答者の平均年齢は 52.2(標準偏差=14.1)歳。65歳以上は 20.9%であり、35～64歳の壮年層が8割弱を占める。
- 回答者の多くは介護・介助を必要としていない人であり、何らかの介護が必要な人は1割程度。

性 別

	n	%
男 性	1916	59.3
女 性	1316	40.7
合 計	3232	100.0
答えたくない	24	
無回答	70	
合 計	3326	

年 齢

	n	%
34歳以下	375	12.1
35歳～49歳	962	31.0
50歳～64歳	1120	36.0
65歳以上	651	20.9
合 計	3107	100.0
無回答	219	
合 計	3326	

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

	n	%
介護・介助は必要ない	2812	87.2
何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない	307	9.5
介護・介助が必要で、介護・介助を受けている	104	3.2
合 計	3224	100.0
無回答	102	
合 計	3326	

- 一人暮らしが3割弱を占める。
- 回答者の幸福度の平均は 4.79(標準偏差=2.55)と全国調査の結果と比べると低い。

ref. 内閣府による最近調査データ(2023年2月実施)

全体の平均=5.79 (男性:5.69、女性:5.90)

内閣府(2023)満足度・生活の質に関する調査報告書 2023;我が国の Well-being の動向

現在、ご自身を含めて何人で暮らしていますか。

	n	%
1 人	822	28.0
2 人	807	27.6
3 人	557	19.0
4 人	404	13.8
5 人	220	7.5
6 人	78	2.6
7 人	26	0.9
8 人以上	16	0.6
合 計	2930	100.0
無回答	396	
合 計	3326	

8人以上を一つにまとめている。

対象者の回答に基づいたものであり、借受人名簿上の世帯構成の値とは一致しない。

あなたは、暮らしの中でどの程度幸せを感じますか

(「とても感じる」を10点、「まったく感じない」を0点としてご記入ください)

	n	%
0点	203	6.3
1点	163	5.0
2点	271	8.4
3点	400	12.4
4点	267	8.3
5点	780	24.1
6点	329	10.2
7点	300	9.3
8点	283	8.8
9点	83	2.6
10点	152	4.7
合 計	3231	100.0
無回答	95	
合 計	3326	

- 就業状況は「仕事をしていない」人が16%程度。パート等の非正規での労働が3割強を占める。
- 「仕事をしていない」人のうち、仕事を探している人が6割を占める。
- 転職回数について、3回以下は4割弱に留まる。6～9回が2割、10回以上が1割を占める。

現在の就業状況についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

	n	%
勤め（常勤・正規職員）	926	28.7
勤め（パート・アルバイト・非正規職員）	1087	33.7
自営業・家業	613	19.0
内職	17	.5
その他の就業形態	60	1.9
仕事をしていない	525	16.3
合 計	3228	100.0
無回答	98	
合 計	3326	

（仕事をしていない人について）現在、お仕事を探していますか。

	n	%
仕事を探している	429	60.6
仕事を探していない	279	39.4
合 計	708	100.0
無回答	2618	
合 計	3326	

学校卒業後、社会人として仕事についてから今までの転職回数をお尋ねします

	n	%
3回以下	1176	38.3
4～5回	900	29.3
6～9回	632	20.6
10回以上	363	11.8
合 計	3072	100.0
無回答	254	
合 計	3326	

- 健康状態について、良好な人が6割強、不良な人が3割強であった。
選択肢が異なるため単純な比較はできないが、国民生活基礎調査と比べると、健康状態が不良な人がやや多い。
ref. 令和4年国民生活基礎調査
よい=22.3% まあよい=18.2% ふつう=46.7% あまりよくない=11.1% よくない=1.7%
- 食事はひとりですることが多いという人(=孤食)が4割強と多い。
ref. 農林水産省(2017)「食育に関する意識調査」
一日の全ての食事を一人で食べる頻度が週4～5日・ほとんど毎日=15.3%
- 友人・知人と会う頻度が月1～3回以下の人が3／4以上を占め、孤立しがちな人が多い。

現在のあなたの健康状態はいかがですか

	n	%
とてもよい	367	11.2
まあよい	1732	53.1
あまりよくない	957	29.3
よくない	207	6.3
合 計	3263	100.0
無回答	63	
合 計	3326	

食事は誰とすることが多いですか【ひとり】

	n	%
該当しない（一人で食事することは多くない）	1872	57.3
該当する（一人で食事することが多い）	1393	42.7
合 計	3265	100.0
無回答	61	
合 計	3326	

友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

	n	%
週4回以上	186	5.7
週2～3日	281	8.6
週1回	405	12.5
月1～3回	808	24.9
年に数回	850	26.2
会っていない	715	22.0
合 計	3245	100.0
無回答	81	
合 計	3326	

- コロナ特例貸付の利用を考えている当時、約半数の人が困りごとを相談できる人がいなかった。
- 等価世帯月収は、コロナ前と比べて、コロナ禍では極端に低くなっており、現在では回復しつつある。ただし、コロナ前ほどの収入には戻っていない。
- 回答者の3/4は窓口で利用申し込みを行っており、1/4が書類郵送で利用申し込みを行っている。

コロナ特例貸付の利用を考えている当時、困りごとを相談できる人はいましたか

	n	%
い た	1630	53.2
いなかった	1435	46.8
合 計	3065	100.0
無回答	261	
合 計	3326	

コロナ特例貸付前・所得減少時・現在の等価世帯月収の分布 *1

	コロナ前 (n=2,888)		コロナ禍 (n=2,882)		現 在 (n=2,886)	
	n	%	n	%	n	%
低 (10 万円未満)	795	27.5%	1,881	65.3%	1,237	42.9%
中低 (10～15 万円未満)	644	22.3%	523	18.1%	657	22.8%
中高 (15～25 万円未満)	918	31.8%	392	13.6%	711	24.6%
高 (25 万円以上)	532	18.4%	85	3.0%	281	9.7%
(平均値±SD) *2	2.41 ± 1.08		1.54 ± 0.84		2.01 ± 1.03	

*1 等価世帯所得として、世帯月収の各カテゴリーの中央値 (0～5 万円未満=2.5、5～10 万円未満=7.5、10～20 万円未満=15.0、20～30 万円未満=25.0、30～50 万円未満=40.0、50 万円以上=55.0) について、世帯人員の平方根で除した値を使用した。算出された等価世帯所得を上記の 4 カテゴリーに集約した。無回答のケースは除外している。

*2 平均値は、低 (10 万円未満) =1, 中低 (10～15 万円未満) =2, 中高 (15～25 万円未満) =3, 高 (25 万円以上) =4, とし算出した。値が大きいくほど月収が高いことを意味する。

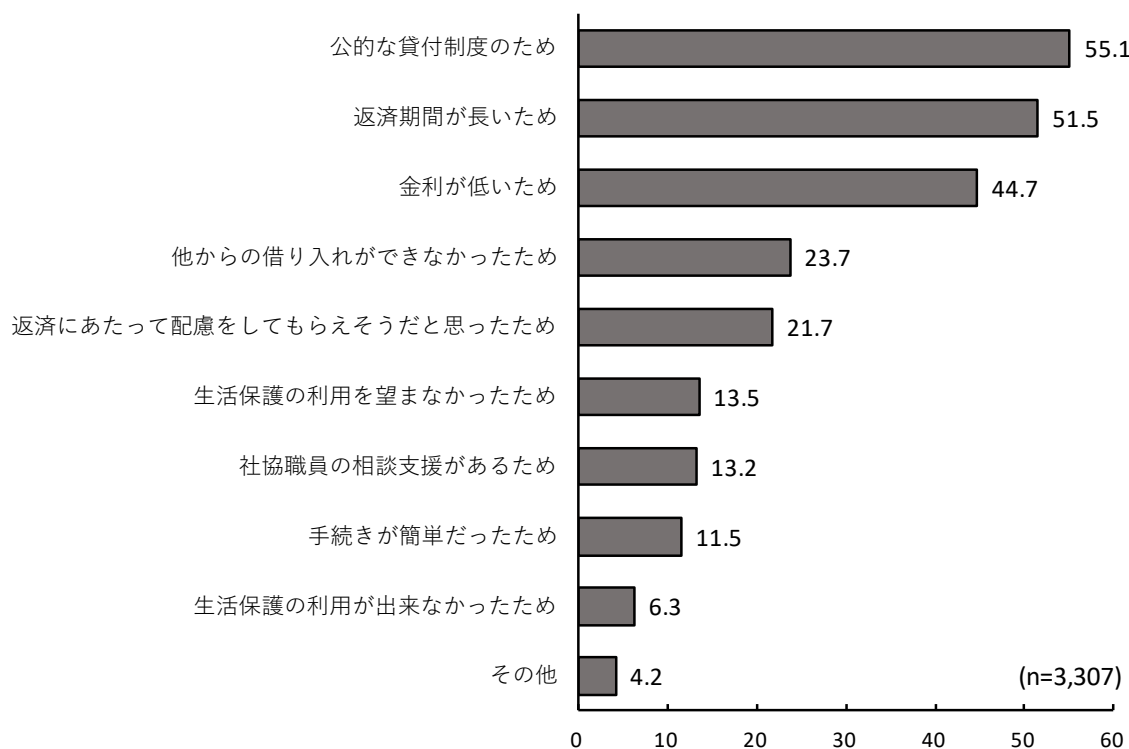
コロナ特例貸付の利用申込はどのような方法でされましたか

	n	%
社協の窓口に行った	2461	74.5
社協へ書類を郵送した	804	24.3
その他	39	1.2
合計	3305	100.0
無回答	21	
合 計	3326	

(2) コロナ特例貸付はどのような困りごとの解消につながったのか

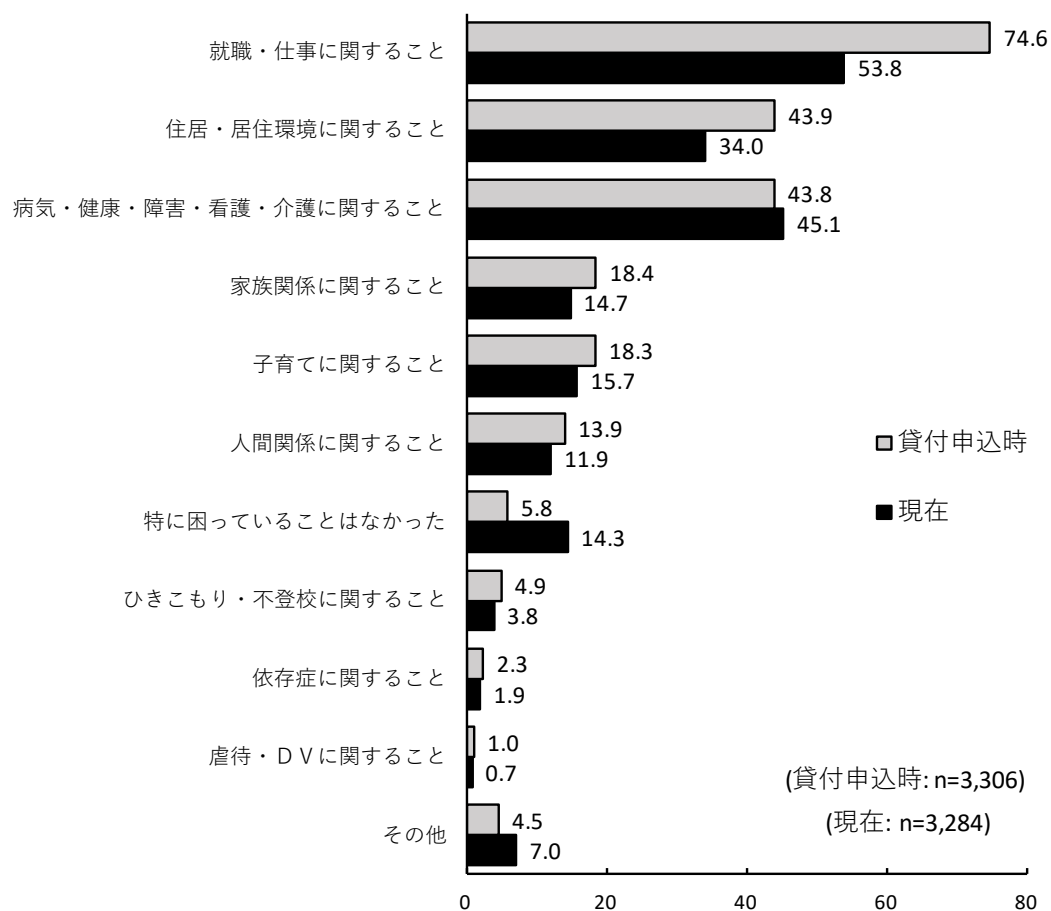
- コロナ特例貸付を利用した理由で最も多いのは「公的な貸付制度のため(55.1%)」であり、ついで「返済期間が長いため(51.5%)」「金利低いため(44.7%)」が多い。
- 一方、「生活保護の利用ができなかったため(6.3%)」「手続きが簡単だったため(11.5%)」「社協職員の相談支援があるため(13.2%)」「生活保護の利用を望まなかったため(13.5%)」は比較的に少ない。

コロナ特例貸付を利用した理由（複数回答）



- コロナ特例貸付の申し込み時の困りごととしては、「就職・仕事に関すること」「住居・居住環境に関すること」「病気・健康・障害・看護・介護に関すること」が多い。
- コロナ特例貸付による効果か否かは特定できないが、その後、現在の困りごとでは全体的に減少し、「特に困っていることはなかった」が 5.8%から 14.3%へと増加している。とくに、「就職・仕事に関すること」と「住居・居住環境に関すること」が減少している。

コロナ特例貸付の貸付申込時および現在の困りごと（複数回答）



- コロナ特例貸付を申し込み時では、「食料・日用品・家賃にかかる出費」「ローン・借金の返済」「税金・公共料金の支払い」でとても困っていたという人が多い（それぞれ 74.1%、60.4%、59.5%）。同様に、家計の状況としては「とても厳しい」が3/4以上を占めている（75.3%）。
- コロナ特例貸付による効果か否かは特定できないが、現在では、上記はそれぞれ4割程度に減少している。とはいえ、依然として、4割弱が上記の出費に「とても困っている」と回答している。家計状況も「とても厳しい」が 40.5%へと減少しているが、「とても厳しい」と「やや厳しい」を合わせると 85.6%が依然として「厳しい」状況にある。

コロナ特例貸付当時・現在の困窮度と家計状況

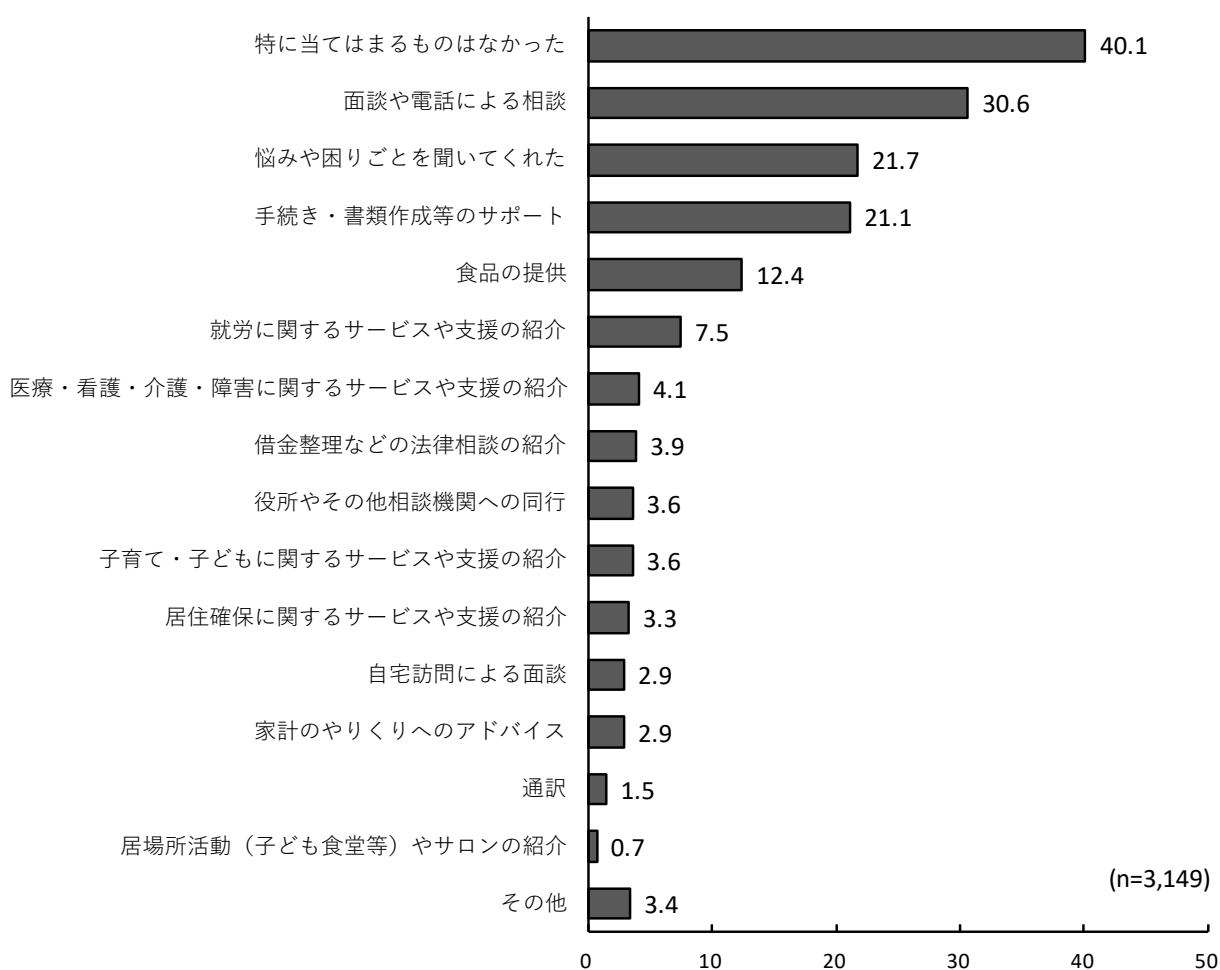
		貸付申込時 ^a	現 在 ^a
食料・日用品・家賃にかかる出費	とても困っていた	74.1%	37.5%
	やや困っていた	24.0%	49.7%
	あまり困っていなかった	1.4%	10.9%
	困っていなかった	0.4%	1.9%
	(平均値±SD) *	1.28 ± 0.51	1.77 ± 0.71
医療・介護にかかる出費	とても困っていた	38.7%	22.3%
	やや困っていた	29.0%	36.4%
	あまり困っていなかった	20.0%	26.9%
	困っていなかった	12.3%	14.3%
	(平均値±SD) *	2.06 ± 1.04	2.33 ± 0.98
ローン・借金の返済	とても困っていた	60.4%	38.8%
	やや困っていた	24.6%	38.9%
	あまり困っていなかった	7.0%	13.8%
	困っていなかった	8.0%	8.5%
	(平均値±SD) *	1.62 ± 0.92	1.92 ± 0.93
税金・公共料金の支払	とても困っていた	59.5%	36.4%
	やや困っていた	30.8%	43.5%
	あまり困っていなかった	6.3%	15.4%
	困っていなかった	3.4%	4.6%
	(平均値±SD) *	1.54 ± 0.76	1.88 ± 0.83
教育・子育てにかかる出費	とても困っていた	34.4%	22.3%
	やや困っていた	17.3%	23.4%
	あまり困っていなかった	12.6%	17.6%
	困っていなかった	35.6%	36.7%
	(平均値±SD) *	2.49 ± 1.29	2.69 ± 1.18
娯楽・趣味・交際にかかる出費	とても困っていた	46.2%	31.7%
	やや困っていた	29.4%	37.2%
	あまり困っていなかった	15.3%	20.6%
	困っていなかった	9.0%	10.5%
	(平均値±SD) *	1.87 ± 0.98	2.10 ± 0.97
家計の状況	とても厳しい	75.3%	40.5%
	やや厳しい	21.1%	45.1%
	少しゆとりがある	2.8%	12.0%
	ゆとりがある	0.3%	0.8%
	(平均値±SD) *	1.28 ± 0.53	1.73 ± 0.70

* とても困っていた／とても厳しい＝1、やや困っていた／やや厳しい＝2、あまり困っていなかった／少しゆとりがある＝3、困っていなかった／ゆとりがある＝4として算出したもの。値が大きいほどゆとりがあることを示す。

a 各変数に無回答のケースは分析から除外しているため、総数は変数ごとに異なる。

- コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けた紹介やサポートについては「特に当てはまるものはない」が40.1%で最も多い。言い換えれば、コロナ特例貸付を利用した人のうち、約6割が社会福祉協議会から貸付以外の何らかの紹介やサポートを受けていた。
- 具体的には、「面談や電話による相談(30.6%)」「悩みや困りごとを聞いてくれた(21.7%)」「手続き・書類作成等のサポート(21.1%)」となっていた。
- コロナ特例貸付の利用申し込みの方法(窓口か否か)によって、その後の社会福祉協議会から受けた紹介やサポートの有無には相違は認められなかった。他方で、社会福祉協議会から紹介やサポートを受けた人は貸付申込時に家計がとても厳しかったという人がやや多かったが、現在は紹介やサポートを受けていない人との差はみられなくなっている。

コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けた紹介やサポート（複数回答）



コロナ特例貸付の利用申込の方法による社会福祉協議会から受けた紹介やサポートの有無の相違

	社会福祉協議会から受けた紹介やサポート	
	とくになし	何らかあり
特例貸付の利用申込の方法		
社協の窓口で行った	59.9%	40.1%
社協へ書類を郵送した	59.6%	40.4%
その他	75.0%	25.0%
		.178

社会福祉協議会から受けた紹介やサポートの有無による当時・現在の家計状況の相違

	貸付申込時の家計状況			
	とても厳しい	厳しい	少しゆとりがある	ゆとりがある
社会福祉協議会から 受けたサポートや紹介				
とくになし	72.0%	25.1%	2.6%	0.3%
何らかあり	78.5%	18.5%	2.6%	0.4%
				<.001
	現在の家計状況			
	とても厳しい	厳しい	少しゆとりがある	ゆとりがある
社会福祉協議会から 受けたサポートや紹介				
とくになし	40.3%	45.1%	13.6%	1.0%
何らかあり	40.8%	47.2%	11.3%	0.8%
				.194

(3) どのような人がコロナ特例貸付に満足しているのか

- コロナ特例貸付を通じた金銭面の援助や相談支援は「役に立った」が 68.9%、「少し役に立った」が 27.1%で、両者をあわせると 95%以上が役に立ったと回答している。
- コロナ特例貸付に対する満足度についても、「とても満足」が 55.5%、「やや満足」が 35.8%で、両者をあわせると 90%以上が満足と回答している。

コロナ特例貸付を通じた金銭面の援助や相談支援は、あなたの生活の困りごとの解決に役立ちましたか

	n	%
役に立った	2,249	68.9%
少し役に立った	885	27.1%
あまり役に立たなかった	88	2.7%
役に立たなかった	40	1.2%
合 計	3,262	100.0%
(再掲)		
役に立った／少し役に立った	3,134	96.1%

今回利用されたコロナ特例貸付に対する満足度はどの程度ですか

	n	%
とても満足	1,809	55.5%
やや満足	1,165	35.8%
やや不満	221	6.8%
とても不満	63	1.9%
合 計	3,258	100.0%
(再掲)		
とても・やや満足	2,974	91.3%

- 男性と比べて、女性の方が、このコロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答がやや多い。
- 年齢層では、65歳以上の人が「役に立った」という回答がやや多く、49歳以下で「とても満足」という人がやや多い。
- コロナ禍の所得減少時に、低所得（等価所得10万円未満／月）および高所得（等価所得25万円以上／月）の人びとの間で「とても満足」という人がやや多い。
- 転職回数が少ない人の方が「満足」という回答がやや多い。
- ひとり親世帯か否かで比べると、ひとり親世帯以外の方が「とても満足」という人がやや多いものの、それ以外では有意な関連は認められなかった。

基本属性等によるコロナ特例貸付の役立ち度と満足度の相違

	役立ち度				満足度			
	(少しを含む) 役に立った %	p	役に立った %	p	(ややを含む) 満足%	p	とても満足 %	p
性 別								
男 性	95.5%		67.5%		89.7%		52.7%	
女 性	97.0%	.027	71.7%	.010	93.6%	<.001	60.0%	<.001
年 齢								
34 歳以下	95.2%		63.2%		92.2%		57.8%	
35 歳～49 歳	96.0%		68.5%		92.4%		59.8%	
50 歳～64 歳	95.5%		69.0%		90.2%		52.9%	
65 歳以上	98.3%	.016	74.7%	.001	92.6%	.214	55.1%	.014
等価世帯所得（月収）・コロナ禍								
低（10 万円未満）	96.8%		69.8%		91.7%		57.5%	
中低（10～15 万円未満）	95.4%		67.6%		91.4%		51.1%	
中高（15～25 万円未満）	94.6%		68.2%		89.0%		49.7%	
高（25 万円以上）	97.6%	.127	65.9%	.675	93.0%	.362	56.5%	.006
等価世帯所得（月収）・現在								
低（10 万円未満）	96.1%		67.7%		90.7%		54.8%	
中低（10～15 万円未満）	95.7%		66.7%		91.8%		54.0%	
中高（15～25 万円未満）	96.8%		71.9%		91.1%		54.5%	
高（25 万円以上）	97.2%	.637	71.8%	.099	92.9%	.658	59.4%	.456
勤務状況								
勤め（常勤・正規職員）	95.7%		67.4%		91.3%		58.4%	
勤め（パート・非正規等）	96.6%		70.0%		91.0%		52.7%	
自営業・家業	96.7%		70.9%		91.5%		54.4%	
内職	100.0%		88.2%		87.5%		56.3%	
その他の就業形態	96.7%		70.0%		95.0%		70.0%	
仕事をしていない	94.7%	.374	66.9%	.238	91.4%	.918	55.7%	.034
転職回数								
3 回以下	95.8%		67.3%		92.7%		57.6%	
4 ～ 5 回	97.1%		70.7%		92.4%		52.8%	
6 ～ 9 回	95.4%		68.9%		88.7%		52.5%	
10 回以上	95.3%	.255	67.4%	.394	88.2%	.003	57.0%	.068
世帯構成								
ひとり親世帯	96.0%		68.7%		91.0%		54.6%	
それ以外	97.1%	.417	71.5%	.366	94.6%	.060	67.8%	<.001

- 困りごとを相談できる人がいない人と比べて、いる人の方が、コロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。
- 友人・知人と会う頻度においても、会っていない・年に数回の人と比べて、週1回以上などある程度人との交流がある人の方が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。
- コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けた紹介やサポートに関しても、何もなかった人と比べて、何らかがあった人の方が、顕著にコロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。
- 使用言語では、日本語の人と比べて、その他の言語の人の方が、コロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。
- 健康度自己評価でも顕著な違いがあり、健康状態が良くない人と比べて、良好な人ではコロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。

基本属性等によるコロナ特例貸付の役立ち度と満足度の相違（つづき）

	役立ち度				満足度			
	(少しを含む) 役に立った %	p	役に立った %	p	(ややを含む) 満足%	p	とても満足 %	p
困りごとを相談できる人の有無								
い る	97.6%		73.0%		95.3%		61.4%	
いない	94.3%	<.001	63.7%	<.001	86.6%	<.001	48.6%	<.001
友人・知人と会う頻度								
週4回以上	98.4%		74.7%		96.8%		58.9%	
週2～3日	96.8%		73.5%		94.3%		57.1%	
週1回	96.8%		71.0%		94.1%		64.1%	
月1～3回	96.5%		71.0%		90.7%		55.1%	
年に数回	96.6%		67.3%		91.9%		52.8%	
会っていない	93.8%	.015	64.5%	.008	86.8%	<.001	53.7%	.005
食事は誰とするか								
他者あり	96.7%		69.4%		92.7%		56.7%	
ひとり（孤食）	95.1%	.018	68.4%	.539	89.4%	.001	53.9%	.116
健康度自己評価								
とてもよい	95.1%		73.8%		95.1%		68.7%	
まあよい	97.1%		71.2%		93.0%		57.2%	
あまりよくない	95.7%		63.5%		86.9%		48.2%	
よくない	90.8%	<.001	66.7%	<.001	89.6%	<.001	52.5%	<.001
社協からの紹介・サポート								
な し	94.7%		61.4%		88.9%		48.2%	
あ り	96.8%	.003	74.2%	<.001	93.0%	<.001	61.1%	<.001
使用言語（調査票内）								
日本語	95.8%		67.2%		90.3%		52.4%	
英 語	92.7%		77.8%		98.1%		74.1%	
ポルトガル語	98.4%		78.0%		97.2%		80.9%	
ベトナム語	99.0%		86.7%		99.0%		66.3%	
スペイン語	97.9%	.083	79.2%	<.001	97.9%	<.001	63.3%	<.001

(4) どのような人がコロナ特例貸付に不安を抱えているのか

- コロナ特例貸付に関する今後の返済の見通しに関する不安については「とても不安がある」が49.3%、「少し不安がある」が35.5%で、両者をあわせると85%程度が今後の返済に不安を抱えている。

今後の返済の見通しに関する不安はありますか

	n	%
とても不安がある	1,585	49.3%
少し不安がある	1,142	35.5%
あまり不安はない	251	7.8%
不安はない	235	7.3%
合 計	3,214	
(再掲)		
とても／少し不安がある	2,728	84.9%

- 返済の見通しに関する不安には、顕著な男女差は認められない(男女ともに約半数がとても不安がある、85%程度がとても／少し不安があると回答している)。
- 年齢層では、50歳～64歳、65歳以上の人のほうが「不安がある」という人が多い。
- 現在、低所得(等価所得10万円未満／月)の人びとの間で「とても不安」および「少し不安」という人が多い。
- 勤務状況では仕事をしていない・内職・自営業の方が「とても不安がある」という回答が多い。
- 転職回数が多い人の方が「とても不安がある」という回答が多い。
- ひとり親世帯か否かで比べると、ひとり親世帯以外の方が「不安がある」という人がやや多いが、「とても不安がある」に関しては、相違はみられない。

基本属性等によるコロナ特例貸付返済の見通しに関する不安の相違

	返済の見通しに関する不安			
	(少しを含む) 不安がある%	P	とても 不安がある%	P
性 別				
男 性	85.5%		47.9%	
女 性	83.9%	.210	51.2%	.070
年 齢				
34 歳以下	82.6%		43.6%	
35 歳～49 歳	81.4%		48.1%	
50 歳～64 歳	86.3%		53.3%	
65 歳以上	88.9%	<.001	49.4%	.007
等価世帯所得(月収)・コロナ禍				
低(10万円未満)	84.8%		51.8%	
中低(10～15万円未満)	85.2%		41.8%	
中高(15～25万円未満)	84.8%		46.6%	
高(25万円以上)	79.8%	.638	34.5%	<.001
等価世帯所得(月収)・現在				
低(10万円未満)	86.4%		58.6%	
中低(10～15万円未満)	86.3%		47.5%	
中高(15～25万円未満)	84.8%		40.6%	
高(25万円以上)	72.9%	<.001	28.5%	<.001
勤務状況				
勤め(常勤・正規職員)	84.3%		43.2%	
勤め(パート・非正規等)	85.0%		49.6%	
自営業・家業	86.8%		50.7%	
内職	100.0%		56.3%	
その他の就業形態	88.1%		38.3%	
仕事をしていない	82.3%	.178	58.5%	<.001
転職回数				
3 回以下	83.1%		44.0%	
4 ～ 5 回	86.2%		50.4%	
6 ～ 9 回	84.6%		51.5%	
10 回以上	84.6%	.317	54.3%	<.001
世帯構成				
ひとり親世帯	79.5%		48.7%	
それ以外	85.3%	.017	49.4%	.849

- 困りごとを相談できる人がいる人と比べて、いない人の方が、返済の見通しに関して「不安がある」「とても不安がある」という回答が多い。
- 友人・知人と会う頻度では、週4回以上の人と比べて、「会っていない」など交流頻度が少ない人の方が「とても不安がある」および「不安がある」という回答が多い。日頃、孤食傾向にある人の方が「とても不安がある」という人が多い。
- 健康度自己評価で顕著な違いがあり、健康状態が良好な人と比べて、良くない人では「とても不安がある」「不安がある」という回答が多い。
- コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けた紹介やサポートに関しても、何もなかった人と比べて、何らかがあった人の方が返済に「とても不安がある」「不安がある」がやや多い。
- 使用言語とは統計学的に有意な関連は認められなかったが、英語・ポルトガル語・ベトナム語の人は「とても不安がある」「不安がある」という人がやや多い。

基本属性等によるコロナ特例貸付返済の見通しに関する不安の相違（つづき）

	返済の見通しに関する不安			
	(少しを含む) 不安がある%	p	とても 不安がある%	p
困りごとを相談できる人の有無				
い る	82.9%		44.9%	
いない	87.3%	<.001	55.3%	<.001
友人・知人と会う頻度				
週4回以上	78.6%		35.4%	
週2～3日	82.7%		43.4%	
週1回	86.0%		50.0%	
月1～3回	83.6%		46.2%	
年に数回	84.8%		48.9%	
会っていない	87.7%	.030	58.9%	<.001
食事は誰とするか				
他者あり	84.3%		47.1%	
ひとり（孤食）	85.5%	.378	52.4%	.003
健康度自己評価				
とてもよい	73.4%		33.8%	
まあよい	84.1%		43.2%	
あまりよくない	89.5%		61.2%	
よくない	91.1%	<.001	73.9%	<.001
社協からの紹介・サポート				
な し	83.0%		48.9%	
あ り	85.9%	.032	50.5%	.047
使用言語（調査票内）				
日本語	84.4%		49.2%	
英 語	92.6%		55.6%	
ポルトガル語	89.0%		54.1%	
ベトナム語	87.6%		46.4%	
スペイン語	78.7%	.080	34.0%	.099

(5) どのような人が社会福祉協議会の認知につながっているのか

- コロナ特例貸付を利用する以前からの社会福祉協議会の認知については、「知っていた」が 41.7%と半数未満であった。
- 他方で、今後、困ったときに社会福祉協議会は頼れるところになると思うかについては、「とてもそう思う」が 47.6%、「ややそう思う」が 41.4%で、両者をあわせると9割弱が頼りになると思うと回答していた。

コロナ特例貸付を利用する以前から社会福祉協議会を知っていましたか

	n	%
知っていた	1,354	41.7%
知らなかった	1,893	58.3%
合 計	3,246	100.0%

社会福祉協議会は、今後あなたが困ったときに頼れるところになると思いますか

	n	%
とてもそう思う	1,548	47.6%
ややそう思う	1,345	41.4%
あまりそう思わない	278	8.5%
そう思わない	80	2.5%
合 計	3,252	100.0%
(再掲)		
とても・ややそう思う	2,894	89.0%

- 女性と比べて、男性の方が、今後困ったときに社会福祉協議会が頼れるところになると思うという回答がやや多い。高齢の人の方が「頼れるところになると思う」という回答がやや多い。
- コロナ禍の所得減少時に、低所得（等価所得10万円未満／月）の人びとの間で「頼れるところになると思う」という人が多い。
- 勤務状況では内職の人では「社会福祉協議会を知っていた」人が多いが、今後困ったときに社会福祉協議会が頼れるところになると思う（とてもそう思う・そう思う）という回答が少ない。
- 転職回数が少ない人の方が「頼れるところになると思う」という回答がやや多い。
- ひとり親世帯の人では「社会福祉協議会を知っていた」人がやや少ないが、今後困ったときに社会福祉協議会が頼れるところになると思う（とてもそう思う・そう思う）という回答が多い。

基本属性等による社会福祉協議会の認知度と今後の関わりの相違

	社協の認知度		社協は今後頼りになるか			
	知っていた %	p	(ややを含む) そう思う%	p	とても そう思う%	p
性 別						
男 性	40.6%		90.5%		49.8%	
女 性	43.3%	.127	87.2%	.003	44.8%	.006
年 齢						
34 歳以下	32.5%		89.8%		48.3%	
35 歳～49 歳	36.9%		88.3%		43.9%	
50 歳～64 歳	46.7%		88.2%		47.3%	
65 歳以上	44.2%	<.001	92.1%	.049	54.7%	<.001
等価世帯所得（月収）・コロナ禍						
低（10 万円未満）	42.0%		89.8%		49.4%	
中低（10～15 万円未満）	42.3%		87.0%		41.4%	
中高（15～25 万円未満）	41.9%		90.6%		44.5%	
高（25 万円以上）	38.4%	.923	82.4%	.042	40.5%	.004
等価世帯所得（月収）・現在						
低（10 万円未満）	40.9%		87.9%		47.2%	
中低（10～15 万円未満）	43.3%		89.8%		49.7%	
中高（15～25 万円未満）	45.2%		91.1%		46.3%	
高（25 万円以上）	35.9%	.041	88.6%	.160	41.1%	.110
勤務状況						
勤め（常勤・正規職員）	35.6%		90.7%		45.7%	
勤め（パート・非正規等）	44.2%		87.0%		43.9%	
自営業・家業	46.5%		92.1%		53.2%	
内職	62.5%		76.5%		37.5%	
その他の就業形態	44.1%		95.0%		63.3%	
仕事をしていない	41.2%	<.001	86.4%	<.001	51.0%	<.001
転職回数						
3 回以下	40.1%		90.4%		51.0%	
4 ～ 5 回	41.6%		87.9%		45.9%	
6 ～ 9 回	44.4%		87.5%		45.4%	
10 回以上	45.4%	.170	87.6%	.166	46.4%	.049
世帯構成						
ひとり親世帯	41.2%		89.2%		48.1%	
それ以外	47.3%	.068	87.0%	.302	41.4%	.045

- 困りごとを相談できる人がいない人と比べて、いる人の方が、今後困ったときに社会福祉協議会が頼れるところになると思うという回答がやや多い。
- 友人・知人と会う頻度においても、会っていないと比べて、週1回以上などある程度人との交流がある人の方が、社会福祉協議会が頼れるところになると思うという回答がやや多い。
- 健康度自己評価でも顕著な違いがあり、健康状態が良くない人と比べて、良好な人の方が、社会福祉協議会が頼れるところになると思うという回答が多い。
- コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けた紹介やサポートに関しても、何もなかった人と比べて、何らかがかった人の方が、社会福祉協議会が頼れるところになると思うという回答が多い(加えて、もともと社会福祉協議会を知っていた人が多い)
- 使用言語では、ポルトガル語・スペイン語の人は顕著に社会福祉協議会を知っていたという人が少ない。また、日本語とポルトガル語の人において、今後、社会福祉協議会が頼りになると思うという回答が顕著に少ない。

基本属性等による社会福祉協議会の認知度と今後の関わりの相違（つづき）

	社協の認知度		社協は今後頼りになるか			
	知っていた %	P	(ややを含む) そう思う%	P	とても そう思う%	P
困りごとを相談できる人の有無						
い る	42.6%		91.6%		51.4%	
いない	40.4%	.219	85.7%	<.001	42.0%	<.001
友人・知人と会う頻度						
週4回以上	44.5%		89.8%		58.1%	
週2～3日	44.3%		91.1%		51.6%	
週1回	37.3%		92.5%		53.0%	
月1～3回	40.3%		91.4%		47.3%	
年に数回	44.5%		89.2%		43.7%	
会っていない	40.1%	.123	83.3%	<.001	45.4%	<.001
食事は誰とするか						
他者あり	39.8%		89.8%		47.1%	
ひとり（孤食）	44.2%	.012	88.0%	.102	48.2%	.539
健康度自己評価						
とてもよい	43.5%		92.9%		56.7%	
まあよい	39.6%		91.2%		48.5%	
あまりよくない	44.7%		85.6%		43.8%	
よくない	41.5%	.074	79.1%	<.001	41.7%	<.001
社協からの紹介・サポート						
な し	38.8%		83.2%		37.8%	
あ り	44.2%	.003	93.0%	<.001	54.1%	<.001
使用言語（調査票内）						
日本語	43.8%		88.4%		46.2%	
英 語	49.1%		96.3%		75.9%	
ポルトガル語	16.7%		91.1%		38.6%	
ベトナム語	53.6%		93.8%		80.4%	
スペイン語	12.5%	<.001	95.8%	.046	79.2%	<.001

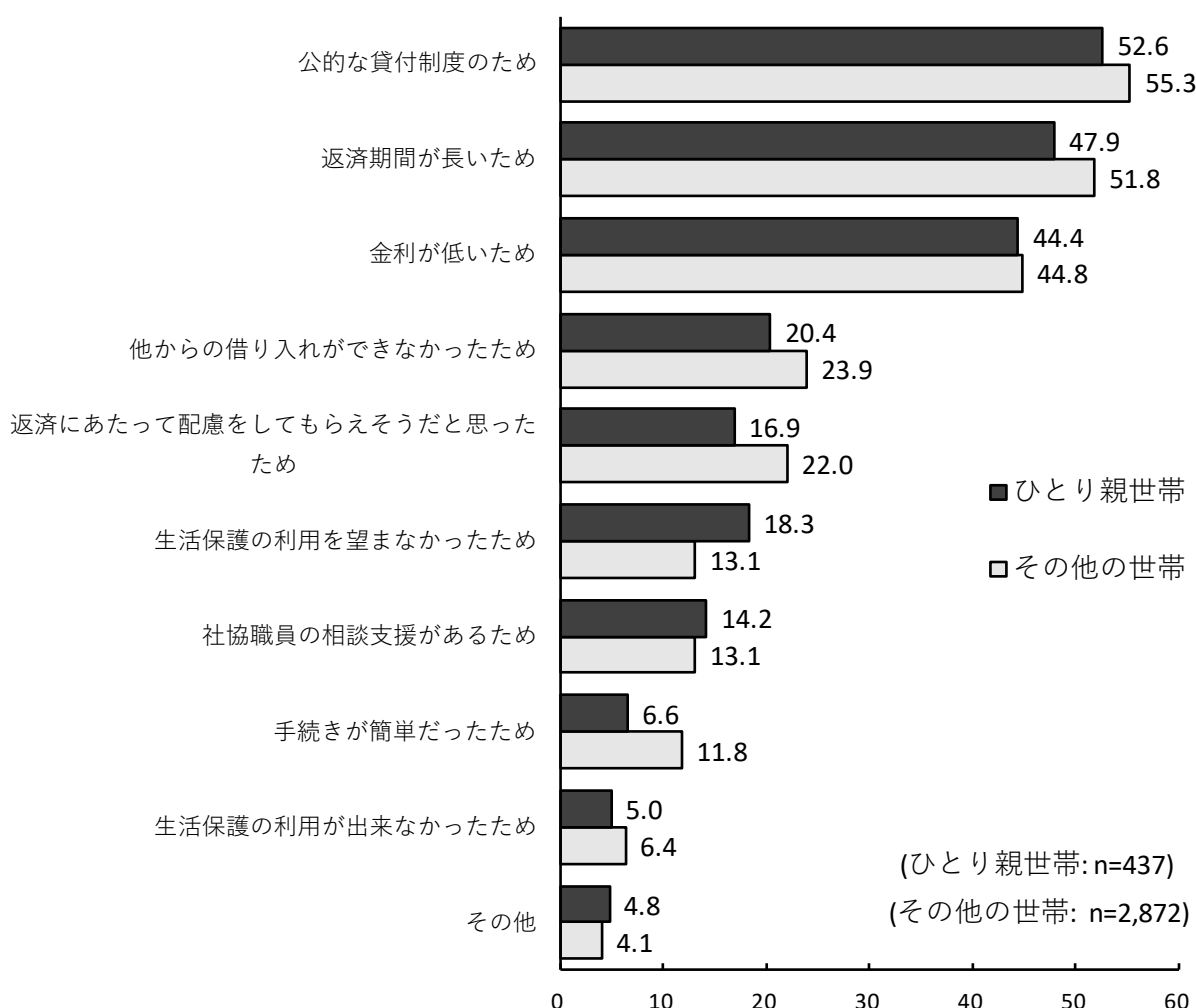
(6) ひとり親世帯はその他の世帯とどう異なるのか

- ひとり親世帯とその他の世帯との間で、コロナ特例貸付を利用した理由に顕著な相違はみられない。ひとり親世帯においても、コロナ特例貸付を利用した理由の上位は「公的な貸付制度であるため(52.6%)」「返済期間が長い(47.9%)」「金利が低い(44.4%)」であった。
- 世帯構成による違いとしては、その他の世帯と比べて、ひとり親世帯では「生活保護の利用を望まなかったため(18.3%)」という理由がやや多かった。
- なお、世帯構成によって、コロナ特例貸付に関する今後の返済の見通しに関する不安についての相違はあまり認められなかった(20頁の結果と重複するため、作表は省略)

ひとり親世帯)とても不安=48.5% とても・少し不安=78.9%

その他の世帯)とても不安=49.4% とても・少し不安=85.3%

ひとり親世帯・それ以外世帯でのコロナ特例貸付を利用した理由（複数回答）



- その他の世帯と比べると、ひとり親世帯では、貸付申込時および現在ともに「食料・日用品・家賃にかかる出費」と「教育・子育てにかかる出費」で困っている人が顕著に多い。貸付申込時と比べて、現在では改善しつつあるが、依然としてひとり親世帯の5割が「教育・子育てにかかる出費」で、4割が「食料・日用品・家賃にかかる出費」で、とても困っていると回答。

ひとり親世帯・それ以外世帯でのコロナ特例貸付当時・現在の困窮度と家計状況

		ひとり親世帯 (n=438) ^a		その他世帯 (n=2,888) ^a	
		貸付申込時	現 在	貸付申込時	現 在
食料・日用品・家賃 にかかる出費	とても困っていた	83.4%	43.0%	73.4%	37.0%
	やや困っていた	15.8%	51.6%	24.6%	49.6%
	あまり困っていなかった	0.7%	4.8%	1.4%	11.4%
	困っていなかった	0.1%	0.7%	0.5%	2.0%
	(平均値±SD) *	1.18 ± 0.41	1.63 ± 0.61	1.29 ± 0.51	1.78 ± 0.72
医療・介護 にかかる出費	とても困っていた	25.1%	15.6%	39.8%	22.9%
	やや困っていた	18.1%	23.5%	30.0%	37.5%
	あまり困っていなかった	28.0%	31.5%	19.3%	26.6%
	困っていなかった	28.8%	29.4%	10.9%	13.0%
	(平均値±SD) *	2.60 ± 1.15	2.75 ± 1.05	2.01 ± 1.01	2.30 ± 0.96
ローン・借金 の返済	とても困っていた	55.8%	38.4%	60.9%	38.8%
	やや困っていた	19.7%	35.6%	25.0%	39.2%
	あまり困っていなかった	9.2%	11.6%	6.8%	14.0%
	困っていなかった	15.3%	14.3%	7.3%	8.0%
	(平均値±SD) *	1.84 ± 1.11	2.02 ± 1.04	1.61 ± 0.90	1.91 ± 0.92
税金・公共料金 の支払	とても困っていた	64.7%	40.3%	59.1%	36.1%
	やや困っていた	27.1%	47.0%	31.1%	43.3%
	あまり困っていなかった	4.6%	8.5%	6.4%	16.0%
	困っていなかった	3.6%	4.2%	3.3%	4.6%
	(平均値±SD) *	1.47 ± 0.75	1.77 ± 0.78	1.54 ± 0.76	1.89 ± 0.84
教育・子育て にかかる出費	とても困っていた	70.4%	52.0%	31.1%	19.6%
	やや困っていた	22.8%	35.4%	16.9%	22.3%
	あまり困っていなかった	6.0%	10.9%	13.2%	18.3%
	困っていなかった	0.8%	1.7%	38.8%	39.9%
	(平均値±SD) *	1.37 ± 0.64	1.62 ± 0.75	2.60 ± 1.28	2.78 ± 1.17
娯楽・趣味・交際 にかかる出費	とても困っていた	55.3%	39.7%	45.4%	31.1%
	やや困っていた	22.0%	37.1%	30.0%	37.2%
	あまり困っていなかった	14.3%	16.0%	15.3%	21.0%
	困っていなかった	7.2%	7.3%	9.1%	10.7%
	(平均値±SD) *	1.72 ± 0.92	1.91 ± 0.92	1.88 ± 0.98	2.11 ± 0.97
家計の状況	とても厳しい	82.8%	45.3%	75.2%	40.7%
	やや厳しい	14.7%	47.3%	21.7%	45.7%
	少しゆとりがある	2.0%	7.2%	2.8%	12.6%
	ゆとりがある	0.4%	0.3%	0.3%	0.9%
	(平均値±SD) *	1.20 ± 0.48	1.62 ± 0.63	1.28 ± 0.53	1.74 ± 0.71

* とても困っていた／とても厳しい＝1、やや困っていた／やや厳しい＝2、あまり困っていなかった／少しゆとりがある＝3、困っていなかった／ゆとりがある＝4として算出したもの。値が大きいほどゆとりがあることを示す。

a 各変数に無回答のケースは分析から除外しているため、総数は変数ごとに異なる。

(7) 経済困窮状況などによって貸付総額は異なるのか

- 調査対象者名簿全体(調査への非回答者を含む)の平均貸付額は 110.6(標準偏差=59.2)万円であった。200万円貸し付けている人が2割弱を占める。今回実施した質問紙調査への回答者と非回答者を比較すると、統計学的に有意な差は認められなかったが、回答者の方が、平均貸付額がやや高かった。
- 調査回答者に限定してみると、年齢が34歳以下および65歳以上の人は平均貸付額がやや低く、壮年層・中年層の平均貸付額はやや高くなっていた($p=.003$)。ただし、性別・等価世帯所得(コロナ前・コロナ禍・現在)・勤務状況・転職回数・世帯構成によって、貸付額の相違は認められなかった。

貸付総額の分布 (調査非回答者を含む)

	n	%
貸付総額		
3～9 万円	11	0.1%
10 万円	114	1.1%
11～19 万円	43	0.4%
20 万円	1,255	12.3%
21～44 万円	83	0.8%
45 万円	198	1.9%
46～64 万円	379	3.7%
65 万円	1,118	10.9%
66～79 万円	32	0.3%
80 万円	1,149	11.2%
81～109 万円	208	2.0%
110 万円	983	9.6%
111～139 万円	248	2.4%
140 万円	1,264	12.4%
141～154 万円	129	1.3%
155 万円	1,109	10.8%
156～199 万円	220	2.2%
200 万円	1,684	16.5%
(再 掲)		
45 万円以下	1,704	16.7
46～109 万円	2,886	28.2
110～155 万円	3,733	36.5
156 万円以上	1,904	18.6
貸付総額 (万円)		
	n	平均値 標準偏差 p
質問紙調査への回答		
回 答	3,290	112.0 59.1
非回答	6,937	109.9 59.4 .092
(全 体)	10,227	110.6 59.2

基本属性等による貸付総額（平均値）の相違

	貸付総額（万円）		p
	平均値	標準偏差	
性 別			
男 性	111.9	58.7	.749
女 性	112.5	59.8	
年 齢			
34 歳以下	103.0	59.5	.003
35 歳～49 歳	114.2	60.0	
50 歳～64 歳	114.6	57.7	
65 歳以上	109.2	60.0	
等価世帯所得（月収）・コロナ前			
低（10 万円未満）	114.2	60.6	.833
中低（10～15 万円未満）	113.1	59.1	
中高（15～25 万円未満）	112.7	59.8	
高（25 万円以上）	115.5	58.8	
等価世帯所得（月収）・コロナ禍			
低（10 万円未満）	113.8	59.2	.583
中低（10～15 万円未満）	111.3	60.2	
中高（15～25 万円未満）	115.6	60.2	
高（25 万円以上）	119.1	62.9	
等価世帯所得（月収）・現在			
低（10 万円未満）	112.3	60.4	.290
中低（10～15 万円未満）	112.1	60.2	
中高（15～25 万円未満）	116.3	58.2	
高（25 万円以上）	117.6	58.5	
勤務状況			
勤め（常勤・正規職員）	109.5	58.9	.506
勤め（パート・非正規等）	112.5	58.8	
自営業・家業	114.5	59.3	
内職	129.4	62.6	
その他の就業形態	112.4	55.9	
仕事をしていない	112.2	60.2	
転職回数			
3 回以下	113.4	59.0	.730
4 ～ 5 回	112.7	58.6	
6 ～ 9 回	113.1	60.4	
10 回以上	109.4	60.3	
世帯構成			
ひとり親世帯	115.0	61.3	.439
それ以外	112.0	58.9	

(8) 返還免除に至っている人はどういう人なのか

- 調査対象者名簿上、返還免除なしが55.5%、非課税・生活保護免除が40.6%、償還猶予が3.7%、その他(障害者手帳免除・死亡免除)が0.3%であった。今回実施した質問紙調査への回答者と非回答者に顕著な層があり、調査回答者では「非課税・生活保護免除」および「償還猶予」の人が多かった。
- 基本属性によって返還免除の状況は顕著に異なっていた。女性、高齢の人、等価世帯所得(コロナ前・コロナ禍・現在)が低い人、自営業・内職・仕事をしていない人、転職回数が多い人、ひとり親世帯の方が非課税・生活保護免除が多く、返還免除なしが少なかった。
- 同じく、孤食傾向にある人、健康度が不良である人、社協からの紹介・サポートを受けた人の方が非課税・生活保護免除が多く、返還免除なしが少なかった。なお、困りごとを相談できる人の有無、友人・知人と会う頻度による相違は認められなかった。
- 回答言語別にみると、日本語・スペイン語の人では「非課税・生活保護免除」が顕著に多く、英語・ポルトガル語の人では「免除なし」および「償還猶予」が顕著に多かった。

調査回答と返還状態のクロス表

			返還状態				合計
			0 免除なし	1 非課税・生活保護免除	2 償還猶予	3 その他(障害・死亡)	
調査回答	0 調査非回答	度数	4344	2368	207	18	6937
		調査回答の%	62.6%	34.1%	3.0%	0.3%	100.0%
	1 調査回答	度数	1332	1783	172	12	3299
		調査回答の%	40.4%	54.0%	5.2%	0.4%	100.0%
合計	度数		5676	4151	379	30	10236
	調査回答の%		55.5%	40.6%	3.7%	0.3%	100.0%

基本属性等による返還免除状況の相違

	免除なし	非課税・ 生活保護免除	償還猶予	p
性 別				
男 性	47.1%	47.2%	5.7%	
女 性	34.7%	60.1%	5.2%	<.001
年 齢				
34 歳以下	54.0%	42.8%	3.2%	
35 歳～49 歳	46.2%	47.8%	6.0%	
50 歳～64 歳	42.2%	51.9%	5.8%	
65 歳以上	28.8%	66.2%	5.1%	<.001
等価世帯所得（月収）・コロナ前				
低（10 万円未満）	27.1%	68.9%	4.0%	
中低（10～15 万円未満）	42.3%	52.1%	5.6%	
中高（15～25 万円未満）	46.3%	47.7%	6.0%	
高（25 万円以上）	54.9%	38.9%	6.2%	<.001
等価世帯所得（月収）・コロナ禍				
低（10 万円未満）	31.4%	64.6%	4.1%	
中低（10～15 万円未満）	58.7%	34.2%	7.1%	
中高（15～25 万円未満）	62.6%	28.5%	9.0%	
高（25 万円以上）	65.9%	27.1%	7.1%	<.001
等価世帯所得（月収）・現在				
低（10 万円未満）	24.8%	70.6%	4.6%	
中低（10～15 万円未満）	47.6%	45.3%	7.0%	
中高（15～25 万円未満）	53.8%	40.9%	5.2%	
高（25 万円以上）	70.1%	24.2%	5.7%	<.001
勤務状況				
勤め（常勤・正規職員）	69.3%	23.8%	6.9%	
勤め（パート・非正規等）	42.6%	51.6%	5.8%	
自営業・家業	22.8%	75.5%	1.6%	
内職	12.5%	87.5%	0.0%	
その他の就業形態	35.0%	55.0%	10.0%	
仕事をしていない	18.6%	75.4%	6.0%	<.001
転職回数				
3 回以下	45.4%	50.1%	4.5%	
4 ～ 5 回	39.0%	54.8%	6.1%	
6 ～ 9 回	41.0%	53.1%	5.9%	
10 回以上	34.9%	59.8%	5.3%	.007
世帯構成				
ひとり親世帯	16.7%	82.1%	1.3%	
それ以外	44.0%	50.3%	5.7%	<.001

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

基本属性等による返還免除状況の相違（つづき）

	免除なし	非課税・ 生活保護免除	償還猶予	p
困りごとを相談できる人の有無				
い る	43.9%	51.2%	4.9%	
いない	40.6%	53.3%	6.2%	.097
友人・知人と会う頻度				
週4回以上	44.3%	53.6%	2.2%	
週2～3日	39.1%	56.6%	4.3%	
週1回	44.4%	49.6%	5.9%	
月1～3回	41.5%	53.2%	5.3%	
年に数回	41.7%	53.0%	5.3%	
会っていない	42.2%	51.0%	6.9%	.398
食事は誰とするか				
他者あり	45.1%	49.8%	5.1%	
ひとり（孤食）	37.8%	56.5%	5.8%	<.001
健康度自己評価				
とてもよい	52.9%	42.7%	4.4%	
まあよい	46.3%	48.6%	5.2%	
あまりよくない	34.5%	60.0%	5.5%	
よくない	22.4%	68.3%	9.3%	<.001
社協からの紹介・サポート				
な し	49.0%	47.5%	3.6%	
あ り	36.5%	56.9%	6.6%	<.001
使用言語（調査票内）				
日本語	38.2%	56.7%	8.4%	
英 語	74.1%	16.7%	9.3%	
ポルトガル語	70.7%	20.7%	8.5%	
ベトナム語	62.2%	34.7%	3.1%	
スペイン語	46.9%	46.9%	6.1%	<.001

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

(9) 返還免除状況によって本制度への満足度や役立ち度、今後の不安は異なるのか

- 返還免除状況による制度への満足度等は顕著に異なっていた。全般的には、非課税・生活保護免除の人の満足度が高く、償還猶予の人の満足度が低い。
- 「生活の困りごとの解決につながったか」では、非課税・生活保護免除の人では約3／4の人が役に立ったと回答したのに対して、「免除なし」および「償還猶予」の人では6割強に留まる。同様に、「コロナ特例貸付に対する満足度」では、非課税・生活保護免除の人では約6割がとても満足と回答し、「免除なし」および「償還猶予」の人では4～5割に留まっていた。とくに「償還猶予」の人ではやや不満・とても不満が多くなっていた。
- 「今後の返済の見通しに関する不安」については、「償還猶予」の人の約3／4がとても不安があると回答し、「免除なし」および「非課税・生活保護免除」と比べて顕著に高かった。他方で、「非課税・生活保護免除」で不安がないという人は2割弱しかおらず、返済が免除されているにもかかわらず、8割程度が不安を抱えていた。
- 「社会福祉協議会は今後あなたが困ったときに頼れるところになると思うか」については、非課税・生活保護免除の人では約半数がとてもそう思うと回答したのに対して、「免除なし」および「償還猶予」の人では4割とやや少ない。とくに、「償還猶予」の人では、あまりそう思わない・そう思わないが顕著に多くなっている。

返還免除状況による制度への満足度等の相違（列％）

	免除なし	非課税・ 生活保護免除	償還猶予	p
困りごとの解決に役立ったか				
役に立った	62.6%	74.6%	63.8%	
少し役に立った	32.7%	22.2%	31.0%	
あまり役に立たなかった	3.7%	1.8%	3.4%	
役に立たなかった	1.1%	1.3%	1.7%	<.001
コロナ特例貸付に対する満足度				
とても満足	49.6%	61.5%	43.8%	
やや満足	39.9%	31.8%	42.0%	
やや不満	8.8%	4.9%	10.2%	
とても不満	1.8%	1.9%	4.0%	<.001
返済の見通しに関する不安				
とても不安がある	43.6%	51.7%	74.4%	
少し不安がある	43.5%	30.1%	24.4%	
あまり不安はない	8.9%	7.7%	0.6%	
不安はない	4.0%	10.5%	0.6%	<.001
今後社協は頼れるところになるか				
とてもそう思う	40.2%	54.3%	41.1%	
ややそう思う	47.7%	36.3%	41.7%	
あまりそう思わない	9.4%	7.6%	10.3%	
そう思わない	2.6%	1.9%	6.9%	<.001

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

4. 調査票

コロナ禍での暮らしに関する調査

本調査へのご回答は、生活福祉資金貸付制度の研究調査に利用させていただきます。アンケート回答に際しましては、そのことについて、ご同意いただいた上でご回答を頂きますようお願い申し上げます。

■ 調査にご回答いただく前にお伺いします ■

本調査にご回答をいただく方はどなたですか。

1. お金を借りた人（本人） 2. 本人以外 →本人との続柄（ ）

■ コロナ特例貸付の利用についてお伺いします ■

問1：コロナ特例貸付を知ったきっかけはどのようなものでしたか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください）

- | | | |
|------------------|----------------------|----------------|
| 1. 役所からの紹介 | 2. 役所以外の支援機関からの紹介 | 3. 民生委員からの紹介 |
| 4. 家族・友人・知人からの紹介 | 5. 新聞やテレビを見て | 6. チラシ・ポスターを見て |
| 7. 市町の広報誌を見て | 8. インターネットやホームページを見て | |
| 9. 社協職員の訪問 | 10. その他 | |

問2：コロナ禍であなたが困ったときに、コロナ特例貸付を利用した理由はどのようなものでしたか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- | | | |
|-------------------------|--------------------|---------------|
| 1. 金利が低い | 2. 返済期間が長い | 3. 公的な貸付制度のため |
| 4. 社協職員の相談支援がある | 5. 生活保護の利用を望まなかった | |
| 6. 生活保護の利用が出来なかった | 7. 他からの借り入れができなかった | |
| 8. 返済にあたって配慮をしてもらえそうだった | 9. 手続きが簡単だった | |
| 10. その他 | | |

問3：コロナ特例貸付の利用申込はどのような方法でされましたか。

1. 社協の窓口に行った 2. 社協へ書類を郵送した 3. その他（ ）

■ コロナ特例貸付を申し込まれた当時と現在のお困りごと等に関する質問です ■

問4：コロナ特例貸付を申し込まれた当時と、現在の家計の状況はどれに該当しますか。

【貸付申込時】

1. とても厳しい 2. やや厳しい 3. 少しゆとりがある 4. ゆとりがある

【現在】

1. とても厳しい 2. やや厳しい 3. 少しゆとりがある 4. ゆとりがある

問5：コロナ特例貸付の利用を申し込まれた当時、下記のようなことにどの程度困っていましたか。また、現在はどの程度困っていますか。それぞれに○をしてください。

1) 食料・日用品・家賃にかかる出費

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

2) 医療・介護にかかる出費

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現 在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

3) ローン・借金の返済

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現 在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

4) 税金・公共料金の支払

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現 在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

5) 教育・子育てにかかる出費

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現 在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

6) 娯楽・趣味・交際にかかる出費

【貸付申込時】

1. とても困っていた 2. やや困っていた 3. あまり困っていなかった 4. 困っていなかった

【現 在】

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

問6：コロナ特例貸付の利用を申し込まれた当時、下記のような困りごとがありましたか。

また、現在もそのような困りごとがありますか。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

【貸付申込時】

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 特に困っていることはなかった | 2. 病気・健康・障害・看護・介護に関すること |
| 3. 住居・居住環境に関すること | 4. 就職・仕事に関すること |
| 5. 人間関係に関すること | 6. 家族関係に関すること |
| 7. 子育てに関すること | 8. ひきこもり・不登校に関すること |
| 9. 虐待・DVに関すること | 10. 依存症に関すること |
| 11. その他（ | ） |

【現 在】

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 特に困っていることはない | 2. 病気・健康・障害・看護・介護に関すること |
| 3. 住居・居住環境に関すること | 4. 就職・仕事に関すること |
| 5. 人間関係に関すること | 6. 家族関係に関すること |
| 7. 子育てに関すること | 8. ひきこもり・不登校に関すること |
| 9. 虐待・DVに関すること | 10. 依存症に関すること |
| 11. その他（ | ） |

■ コロナ特例貸付を利用された当時から今までのお気持ち等についてお伺いします ■

問7：コロナ特例貸付の相談から今までの間に、社会福祉協議会から以下のような紹介やサポートがありましたか。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 面談や電話による相談
2. 自宅訪問による面談
3. 悩みや困りごとを聞いてくれた
4. 食品の提供
5. 家計のやりくりへのアドバイス
6. 借金整理などの法律相談の紹介
7. 医療・看護・介護・障害に関するサービスや支援の紹介
8. 居住確保に関するサービスや支援の紹介
9. 就労に関するサービスや支援の紹介
10. 子育て・子どもに関するサービスや支援の紹介
11. 居場所活動（子ども食堂等）やサロンの紹介
12. 役所やその他相談機関への同行
13. 手続き・書類作成等のサポート
14. 通訳
15. その他（ ）
16. 特に当てはまるものはなかった

問8：コロナ特例貸付を通じた金銭面の援助や相談支援は、あなたの生活の困りごとの解決に役立ちましたか。

1. 役に立った
2. 少し役に立った
3. あまり役に立たなかった
4. 役に立たなかった

問9：今回利用されたコロナ特例貸付に対する満足度はどの程度ですか。

1. とても満足
2. やや満足
3. やや不満
4. とても不満

問10：今後の返済の見通しに関する不安はありますか。

1. とても不安がある
2. 少し不安がある
3. あまり不安はない
4. 不安はない

問11：社会福祉協議会は、今後あなたが困ったときに頼れるところになると思いますか。

1. とてもそう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

■ あなた自身のことについてお伺いします ■

問12：1) 性別

1. 男性
2. 女性
3. 答えたくない

2) 年齢

歳

問13：現在の就業状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員）
2. 勤め（パート・アルバイト・非正規職員）
3. 自営業・家業
4. 内職
5. その他の就業形態
6. 仕事をしていない

「6. 仕事をしていない」を選んだ方にお伺いします。
現在、お仕事を探していますか。

1. 仕事を探している
2. 仕事を探していない

問14：学校卒業後、社会人として仕事についてから今までの転職回数をお尋ねします。

※派遣社員の場合、派遣会社が同じで派遣先のみが変わった回数は転職回数に含まないでください。

1. 0～3回
2. 4回
3. 5回
4. 6回
5. 7回
6. 8回
7. 9回
8. 10回以上

問15：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない
3. 介護・介助が必要で、介護・介助を受けている

問16：現在のあなたの健康状態はいかがですか。

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. よくない

問 17：食事は誰とすることが多いですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. ひとり 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫 6. 友人 7. その他（ ）

問 18：友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

1. 週4回以上 2. 週2～3日 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 会っていない

問 19：コロナ特例貸付の利用を考えている当時、困りごとを相談できる人はいましたか。

1. いた 2. いなかった

→ 1. いたと答えた方にお聞きします。それはどのような関係の方ですか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 配偶者 2. 親族・親戚 3. 同僚・友人 4. 近隣住民・民生委員 5. 役所
6. 専門家(ファイナンシャルプランナー・弁護士・税理士など) 7. 社協職員
8. その他（ ）

問 20：あなたは、くらしの中でどの程度幸せを感じますか。

(「とても感じる」を10点、「まったく感じない」を0点としてご記入ください)

まったく感じない 0点----1点----2点----3点----4点----5点----6点----7点----8点----9点----10点 とても感じる

問 21：コロナ特例貸付を利用する以前から【社会福祉協議会】を知っていましたか。

1. 知っていた 2. 知らなかった

■ あなたのご家庭についてお伺いします ■

問 22：現在、ご自身を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。

(同居されている方すべてに○をつけてください。)

人

1. いない 2. 配偶者(夫・妻) 3. 息子 4. 娘 5. 子の配偶者
6. 孫 7. 兄弟・姉妹 8. 自分の父 9. 自分の母
10. 配偶者の父 11. 配偶者の母 12. その他（ ）

問 23：コロナの影響を受けるまえ、コロナ禍で収入が減少していたとき、および、現在の世帯月収
(年金を含む、税引き前の金額)をお尋ねします。

1) コロナの影響を受けるまえの
世帯月収(税引き前の金額)

1. 0～5万円未満 2. 5万円～10万円未満
3. 10万円～20万円未満 4. 20万円～30万円未満
5. 30万円～50万円未満 6. 50万円以上

2) コロナ禍で収入が減少時の
世帯月収(税引き前の金額)

1. 0～5万円未満 2. 5万円～10万円未満
3. 10万円～20万円未満 4. 20万円～30万円未満
5. 30万円～50万円未満 6. 50万円以上

3) 現在の世帯月収
(税引き前の金額)

1. 0～5万円未満 2. 5万円～10万円未満
3. 10万円～20万円未満 4. 20万円～30万円未満
5. 30万円～50万円未満 6. 50万円以上

これで調査票は終了です。ご協力ありがとうございました。

令和 5 年度 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業
滋賀県におけるコロナ特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究
コロナ禍での暮らしに関するアンケート調査 報告書

令和6(2024)年5月発行
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
〒525-0072 滋賀県草津市笠山 7-8-138
TEL:077-567-3920 MAIL:tiiki@shigashakyo.jp
